

体験活動のススメ

～その1～



1 子どもの体験活動について

子どもの頃の体験活動は、豊かな人生の基盤になるものです。子どもの体験活動の有用性、子どもを取り巻く環境、子どもたちの現状について考えてみました。

☆子どもの体験活動の有用性

子どもの体験活動の有用性については、「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（独立行政法人国立青少年教育振興機構・H22）に詳しく述べられています。「子どもの頃の体験活動が多い人ほど、やる気や生きがいを持てる人が多い」「少年期の体験が多い人ほど思いやり・やる気・人間関係力等の資質・能力が高い」など、子どもの頃の体験は、その後の人生に影響することが結論づけられています。

☆子どもたちを取り巻く環境、子どもたちの現状

子どもたちを取り巻く環境も変わってきています。自然や広場などの遊び場が減少、室内遊びやインターネットの利用時間の増加などは、「体力・運動能力、コミュニケーション能力の低下」につながっています。

また、自己肯定感(自尊感情)、学習の成果や将来の生活に対する期待が低いなどの現状から、「人間関係の形成が困難」であるなどの問題点が指摘されています。

※「子どもの体験活動」とは・・・

「体験」とは、文字どおり自分の身体を通して経験するという意味です。教育的には、「事実や事象との関わりの過程で、主として感覚機能を用いて自己を変容する営み」と定義されます。

しかし、「体験」は、その出現が偶発的であり、未整理状態が多いので、これを青少年の人間形成に役立つように、教育的配慮で編成したものを「体験活動」と呼びます。

筑紫野市社会教育委員の会

2 子どもの体験活動における活動における課題

筑紫野市においても子どもの体験活動にかかわるさまざまな取り組みがなされています。

地域が主体となって取り組んでいる三つの実践をもとに意見交換を行い、見えてきた課題を整理してみました。

☆三つの実践例と話し合いの視点

- 「ステキな夏休み教室」・・・効果的な体験活動の場
 - ・体験活動の場づくりのポイント
 - ・多世代交流の視点
 - ・体験活動の機会の充実
- 「子ども会活動」・・・親のかかわり方はどうあるべきか
 - ・保護者と地域の関わり
 - ・保護者と子どもの関わり
- 「通学合宿」・・・子どもが主役の活動
 - ・大人たちができること
 - ・子どもたちに望みたいこと



☆見えてきた二つの課題

地域での体験活動では、取り組んでいる地域と取り組めていない地域での差がうまれているといえます。

そして、体験活動に取り組む大人の姿勢によって子どもの体験の質が変わってしまうということもあげられます。

また、いくら地域で熱心に取り組まれていても家庭(保護者)に届かない、家庭の理解がなければ子どもは参加できない、参加できたとしても、そこで得たことを反芻したり活かしたりする機会が減っているという課題が浮かび上がってきました。

子どもの体験活動についてのさまざまな課題を整理すると2点に集約することができます。

課題1：「地域での体験活動のあり方」

課題2：「家庭(保護者)と地域での体験活動のつなぎ方」

3 子どもたちの体験活動を広げる

筑紫野市の子どもたちが多くの体験活動をすることで、豊かな人間性を育めるように、二つの課題について提案します。



課題1：「地域での体験活動のあり方」

○関わる大人たちは、手や口を出すのではなく、背中を見せましょう

体験活動は、子どもたちが主体性を持って活動することが重要です。安全のためにも事前の段取りや運営の下支えは、必要ですが、子どもたちが知恵をだしあい、不便さを乗り越える体験を大事にしたいものです。

○体験活動に関わる全員で、目的・目標を共有しましょう

何のために行うか、「地域の子どもの健全育成のため」といった漠然としたものではなく、具体的な目標があるとなおよいでしょう。また、大人も子どもも、体験活動の目的を共有することで義務感やしつこい感はなくなり、期待をもって参加することができます。

○子どもたちが楽しいと思えるプログラムを工夫しましょう

体験活動がマンネリになっていませんか？決して流行を追いかけたり、遠くへ出かけたり、お菓子等をたくさん用意する必要はありません。子どもたちに「どんな活動がしたい？」と問いかけてください。たくさんのヒントが得られるはずです。

○高齢者とのふれあいを演出しましょう

高齢者は、たくさんの経験と知恵をもっています。高齢者と多く触れ合うことで、子どもたちはそうした経験や知恵への尊敬や憧れを持ち、お年寄りを敬う心をはぐくんでいきます。高齢者の元気にもつながるはずです。

○行政区をこえた活動にも取り組みましょう

子ども会活動や地域行事は多くが行政区ごとに取り組まれています。子どもが少ない地域では活動が下火になってしまうことも。複数の行政区で連携してできる取り組みについても進めていきましょう。

○子どもたちの可能性を信じましょう

「今の子どもは・・・」と言っていないませんか？子どもたちの本質はきっと昔も今も変わりません。豊かすぎる環境、危険から遠ざけようとする環境が、子どもたちの体験の芽を摘んでいます。「鍛えて、ほめる。」大人はゴールまでよりそう伴奏者になりましょう。

課題2：「家庭(保護者)と地域での体験活動のつなぎ方」

① 家庭に望むこと

○地域とのつながりを大事にしましょう

面倒だなあ・・・と思う気持ちは子どもにも伝わります。忙しいのはお互いさま。少しでも時間を作って顔を出したり、あいさつをしたりするだけで、つながりは生まれてくるものです。あなたの時間ができたときに、地域で子どもたちの体験活動を支える立場になればいいのです。思い切って地域の人に子どもを託すことも大事です。子どもは家庭だけ、学校だけで育つではありません。子どもや、子育てに関する悩みを抱え込まずに、地域の人に頼り、地域の人とともに育てる、と意識を転換してみませんか。

○家庭の中で、体験活動についての情報を共有しましょう

体験活動は子どもだけのものではありません。参加するのは子どもですが、そのきっかけは保護者にあります。体験活動について、食卓で話題にしてください。「参加して、〇〇できるようになるといいね」と背中を押してあげてください。参加した子どもの変化を見逃さず、ほめてあげてください。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん・・・それぞれの視点からの声かけで子どもはより成長できるはずです。



② 地域に望むこと

○全ての家庭につながることをこころがけましょう

何度よびかけても参加しないから・・・とあきらめないでください。厳しい家庭環境にある子どももいます。また、いろんな事情で学校にいけない子どももいます。地域はすべての子どもの受け皿になるべきだと思います。地域だからこそ築ける人間関係や地域だからこそ輝く子どもの個性がきっとあります地域によっては、子ども会を任意加入制から、地域に住んでいる子供全員を会員とする「全員子ども会」を立ち上げているところもあります。体験活動の差をなくすための工夫がはじまっています。

○地域で、情報の共有をもっと進めましょう

アパートや賃貸住宅に住む家庭に情報は届いていますか？通勤や住宅の購入ですぐに出て行ってしまいうから・・・と、あまり関係が築けていない地域もあるようです。そうした家庭にこそ、子どもの体験活動を通じて、人間関係をつくり、地域の良さを知ってもらいましょう。地域への定住促進や離れても筑紫野市を応援してくれる人材になってくれることでしょう。